

評価結果報告書

1. 自己評価及び外部評価結果
2. 自己評価及び外部評価の詳細
 - I 理念に基づく運営
 - II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
 - III その人らしい暮らしを続けるための
マネージメント
 - IV その人らしい暮らしを続けるための
日々の支援
 - V アウトカム項目

訪問先事業所名

グループホーム五日市・みどりの家

訪問調査日

平成 22 年 8 月 22 日

調査実施時間

開始10 時 00分 ~ 終了15 時 30 分

事業者側対応者	職名	管 理 者	氏名	松 浦 真 紀
	職名	計画作成 担当者	氏名	近 藤 純 子
	職名	計画作成 担当者	氏名	橋 本 見 佳

ヒアリングした職員 (1)名

評価調査員氏名	主任調査員氏名	内 藤 慎 吾
	調 査 員 氏 名	先 家 裕 司

広島市東区福田1丁目167番地
特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
理事長 井上 武彦
TEL 082-899-3611 FAX 082-848-0296

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 9月 23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200197
法人名	(株)エポカケアサービス
事業所名	グループホーム五日市みどりの家(3階)
所在地	広島市佐伯区五日市中央3丁目16-15 082-922-7454
自己評価作成日	平成 22年 9月 13日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点，アピールしたい点（事業所記入）】

集団的な画一的な対応ではなく個人個人の状態に合わせ1対1の対応を心掛けている。少人数での外出にも力を入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の理念のもとで利用者がゆったりとした時間の中で自分らしく心豊かな生活ができるように、職員は利用者と一緒に喜怒哀楽を共にし、助け合いながら生活し、温かいケアのできる家を目指している。また、職員はより良い業務運営のために常に改善を心掛け、積極的に研修を行っており、代表者や管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ゆっくり・いっしょに・たのしくの理念を掲げ職員共々意識しながら日々をすごしている。	「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を理念に掲げ各フロアに掲示すると共に、日常のミーティング等で繰り返し話をし理念を共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入り地域の行事にも積極的に参加し、情報交換に努めている。	町内会に加入し、回覧板をまわしたり、町内の清掃、祭り、運動会、安全パトロールに参加、日常の散歩であいさつを交わすなど、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	いま地域に必要なものや求められているものを地域包括などから情報をもらい自分たちのできる事を考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の情報や他ホームの活動、行政の動向などを収集しながらホームの取りくみや相談事に意見をもらい運営に役立てている。	2か月に1度会議を開催し、ホームの現状や問題点を報告し、参加者からの意見、助言を受けてサービスの質の向上に活かしている。外部からの参加は町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、消防署、区健康長寿課、他グループホーム職員等で活発な意見交換や情報収集の場となっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に参加を要請してホームの現状を理解してもらえよう努めている。	市の担当者とは運営推進会議への参加や、諸報告提出などを通じて緊密な連携を深めている。また、地域包括支援センターとの連携も充分行なわれており、サービスの向上に役立てている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は開放できていないが職員は禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できている。利用者の安全を第一に考えている。	デイサービス(1階)と併設のため、安全上日中はオートロックを使用しているが家族には了解されている。職員は身体拘束による弊害については研修等を通してよく理解しており、見守り・声かけ・夜間巡視を徹底し利用者の安全に取り組んでいる。	利用者の安全のために1階玄関の施錠を行っており、利用者家族には口頭で説明し理解されているようであるが、施錠の必要性について明文化されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の行政集団指導や研修に参加し、日々その意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	機会のある時に研修に行き学んだことを全体ミーティング等で発表し職員全体で共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	項目ごとに説明しながら質問を受け確認し、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・要望を受けたらすぐに検討し改善を目指す。その経過も常に報告している。	家族との面会時や家族会、ご意見箱等を通して意見・要望を聞き、運営に反映させるとともに、重要事項説明書に苦情や相談についての窓口を明記し対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	社員ミーティング・全体ミーティング等で意見や提案を受け、運営に活かしている。	日常のミーティングや全体ミーティングでの意見や提案を代表者や管理者は真剣にとりあげ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働条件も改善され環境が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間スケジュールによる研修や個別の研修を受ける機会を設け、各自が向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業者との交流を活発にし、互いの運営推進会議に出席して参考にしている。また合同外出を企画してお互いのよいところを吸収しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学に来られた時や入居面談時にはじっくりお話を聞き安心していただける雰囲気作りに努める		
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学時や面談時にしっかりと話を聞きそしてホームでの生活などについて不安や誤解のないようしっかりお話をさせていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の訴えをよく聞き、必要な支援を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として尊敬の念、教わる気持ちを忘れずに信頼できる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に日頃のご様子を詳しく伝えながら、共に協力し合える関係を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人などの面会を積極的に受け入れている。馴染みの場所への訪問も取り入れている。	友人・知人などの面会などを積極的に受け入れるとともに、馴染みの場所への訪問も積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間関係のトラブルには職員が間に入り孤立しないようせんしている。場合によっては席替えをしたり時間をずらすなどの工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族の支えになれるようフォローしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人お一人のペースに合わせ画一的にならず集団のなかの個人を尊重している。	毎日の生活の中で日常会話や動きを通して利用者一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。また、家族からも利用者の生活歴や要望を聞き日常の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	お一人お一人に心地よく穏やかに過ごしていただく為にその方の今までの生活や習慣等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	小さな変化も見逃さないよう、けれどさりげなく見守っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の状況をより反映させる為にスタッフ各々がケアプラン作りに取り組んでいる。	利用者や家族の希望や意見をよく聞き、職員、関係者などで介護上の課題を明らかにし、利用者がその人らしく生活するための介護計画を作成している。また、6か月毎に見直しを行なっているが、状態の変化や家族の要望に応じてその都度見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その人に合った工夫やアイデアを出し合い実施し、その状況を記録し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者やとりまく状況に応じて細かい支援ができるよう臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員や町内会、地域のボランティアなどと協力しながら支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との信頼関係は強固である。誠意ある医療を受けることが出来ている。	利用者、家族の同意のうえで協力医院や在宅専門医による24時間対応の健康管理を行なっている。また従来からのかかりつけ医との信頼関係は強固であり、本人の希望に応じて継続して受診できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師とも情報を共有し、意見やアドバイスをもらい、適切な日々の健康維持に役立てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は定期的に病院関係者や家族と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医との連携を密にし、入居者の状況をみながら家族・医師・職員で話し合いながらその意向を大切にしながら職員全員で意思統一し終末ケアを行っている。	「医療的な対応等に関する指針」の中で終末期のあり方について明記し、利用契約締結時に家族と本人の意向を確認し、その意向を踏まえたうえで指針をたて、スタッフ全員で意思統一し、終末ケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎年、救命救急講習を受け、いざという時に困らないよう技術の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	自治会に参加し、防災の連絡網に加わっていざという時に地域に支援要請できる体制となっている。避難および防災訓練も年2回おこなっている。	災害時の対応マニュアルを備えるとともに自治会に加入、地域の防災連絡網に載せ非常時、地域に支援要請できる体制となっている。年2回、避難および防災訓練を行なっている。	「夜間を想定した訓練の実施」と「地域の人の訓練参加」を実現されたい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に入居者の尊厳やプライバシーを傷付けない対応を心掛けている。	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを傷付けないように言葉かけや対応に気をつけ良好な人間関係を築くとともに個人情報の取り扱いについても契約書に明記し細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけを押し付けられない様に、自己決定していただくような声かけを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全体の流れはあるが、その方の必要な心地よいペースで過ごしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方のこだわりを大切にしながら支援している(行きつけの美容室や洋服屋さん)		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方、したい方にお手伝いしていただき、一緒に作る楽しみをかんじていただく	食事の準備・味付け・片付けなどを出来る人には一緒に手伝ってもらい楽しい食事の時間を過している。また食事中は職員が見守りやサポートをさりげなく行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事を把握し嗜好を考慮しながらおいしく召し上がっていただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分で出来る方には一人でしていただき難しい方には、その状態に合わせた声かけ、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時間や仕草・様子をみてそっと声かけをしている。お一人お一人のリズムを把握するよう努めている。	利用者一人ひとりの様子や時間、間隔を見ながら声かけをして排泄のリズムを把握するようにし個人の生活日誌に記入し、自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その方の体質に合った飲食物の工夫をして異変の前兆などを見落とさないよう見守っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望や体調に合わせて曜日や時間の変更など臨機応変に対応している。	一日おきの入浴スケジュールとなっているが利用者一人ひとりの希望や体調を確認しながら、それぞれのペースに合わせて入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の習慣や体調に合わせて自分のペースで休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更や調整は主治医・薬剤師の指導のもと正しく服用できるよう理解できている。確実に服用していただく為支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者のきもちを大切に、それぞれ得意なことを発揮でき達成感を感じられるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望にはできるだけ迅速に応えられるよう心掛けています。少人数または個別での外出の支援を積極的に行っている。	利用者一人ひとりの希望や状態に応じて外出支援を行っており、朝夕の散歩・買い物・ドライブなどによく出掛けている。また日常の会話の中から行きたい場所などを聞いておいて、個別または少人数での外出の機会を作るようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理出来る方にはお小遣い程度の額を所持していただき外出時などには自由に使っていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一緒にポストに投函に行ったり、電話番号に架けたり支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	雑音として耳に聞こえてくるものや、大きな音がしないよう工夫している。	フロア内には華美な飾り付けはせず行事の写真の展示や、花など季節感のある物を置いたり、静かな音楽を流している。 また、ソファやテーブルの配置にも工夫がされており、気の合う人達がゆっくり談笑したりテレビを楽しめる大人の雰囲気のある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その場所でその人と居たら落ち着ける・・・という空間を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた自分の馴染みのものに囲まれ過ごしていただけるように家族にも協力をお願いしている。	居室には使い慣れた家具や生活用品を持ち込むとともに、写真や作品などで思い思いの飾り付けを行ない自分の部屋で自分らしく安心して過ごせるような居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	お一人お一人で違う「できること・わかること」をさりげなく援助して自信を失わないよう心掛けている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		② 利用者へのサービス評価について説明した
		③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	① 自己評価を職員全員が実施した
		② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		⑤ その他（ ）

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム五日市・みどりの家

作成日 平成 22年 10 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の避難訓練、防災訓練を行っているが夜間を想定した訓練が出来ていない。	次回の避難訓練時に夜間を想定し実施する。	他のグループホームの夜間を想定した避難訓練を見学させてもらい実施の参考にした。	22年10月28日予定
2	6	利用者安全の為1階玄関エレベーターの鍵をかけているので閉鎖感があるように見える。	安全を重視しつつ閉鎖感を与えないよう段階的に開錠していく。	第1段階としてエレベーターの鍵をかけず、見守りを強化していく。	22年10月中
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。